



動物園の魅力

会員 笹川 麻利恵 (60期)

年に10回くらいは動物園に行くという話をすると、動物園についてのマニアックな知識を持っているように思われることもあります。残念ながらそんなことはありません。もっとも、動物園にはいくら通っても飽きない魅力があるのは事実ですので、それをご紹介しますと思います。

まず、東京近郊には多くの動物園があります。上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園、よこはま動物園ズーラシア、野毛山動物園、金沢動物園、埼玉県子ども動物自然公園、東武動物公園…加えて、町田リス園や熱川バナナワニ園のような専門的なところもあります。世界的にも、ここまで動物園の数と動物の種類に恵まれたところはないと思います。

動物園は繁殖を通じて種の保存への還元を試みる役割も担っており、絶滅危惧種に指定されている動物たちにも会うことができます。多摩動物公園のモウコノウマ、上野動物園のフォッサ、金沢動物園のアラビアオリックスなどは、姿も優美で気高く、こうした動物たちを絶滅させることがいかに愚かなことかと考えさせられます。

上野動物園はパンダが人気ですが、コビトカバは愛嬌でいっても珍しさでいっても引けを取らないでしょう。



多摩動物公園のチーター

これにオカピを加えると世界三大珍獣とも言われますが、全て上野動物園で会うことができます。

そして、どの動物園にも、「この子は…」と気になってしまう動物がいるものです。たとえば、上野動物園のマレーグマ、多摩動物公園のユキヒョウ、ズーラシアのヤブイヌなどは行動そのものがチャームで目を引かれます。私は上野にいたマレーグマのマチちゃんが好きだったので、繁殖のため福岡にお嫁入りしたときは悲しみましたが、福岡出張の際に会いに行き、元気な姿に安心したりしました。

飼育員さんたちが丹精込めて飼育をし、長寿を誇っている動物たちもいます。野毛山動物園のラクダのツガルさん、井の頭自然文化園のゾウのはな子さんは、健康であることを確かめるためにも顔を見に行きたくなります。

動物園という空間そのものが私にとっては心安らぐ場です。多摩動物公園は自然が豊かで四季折々の植物に彩られ、秋には多くの種類のどんぐり拾いができます。アケビもなります。竹林には美しい竹が天に向かって伸び、特に秀逸な一本には「来年の角松用」と書かれた札がかけられたりして、気取りのない実直な営みを感じさせます。

夏場、昆虫館には「虫よけスプレーを使用しないでください」という至極ごもっともな注意書きがなされ、バッターが「く、くるしい…」と訴えているイラストが添えられたりします。クスッと笑ってしまいますが、中に入ると、そこは蝶のユートピアです。気持ちの良い考え事をするのにこれ以上の場所はなかなかないと思います。

動物園に行ってみようかと興味を持ってくださるなら、朝いちばんの動物園がお勧めです。動物たちは早起きですから開園時間には元気いっぱいですし活動的です。多くの動物園が生態展示を試み、動物にストレスが少なく環境的にも豊かな展示となっています。朝日を浴びて輝くような動物たちのエネルギーに触れると、自分自身のパワーも回復できるような清々しい気持ちになれるのではないのでしょうか。